

---

# gut letzt Tag

大輔(だーすけ)

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

gut le t z t Tag

### 【Nコード】

N3552BA

### 【作者名】

大輔<sup>だいすけ</sup>

### 【あらすじ】

俺君シリーズ第12弾。「正夢になればいいのに。」

笑えねえ冗談。

君は気付いてくれるかな？

この傷つくことを恐れる心に。

同情は要らないと、

つっぱねた君は。

「笑えないくらい、最高の日」

外を見てみれば、これが冬晴れかー！というくらいの晴天。

笑えねえ、って言うっておきながら笑った俺を、君は笑うかな。

(だけどきつと歪んでたんだ、俺のそれは)

大事な初夢は君の夢。君がつれなさを隠してメールに答えてくれたから。

前は自惚れじゃなく両想いだったはずなのに、結局矢印は繋がらず向かい合っただまま。

だからまだ俺は君に好意を寄せてるの。

だけど新年早々物騒だ。あんな笑えない冗談かましてくるなんて。この俺が倒れるなんて。

夢の中でも倒れた。咳き込んで、でも君に心配かけたくなくて、背を向けた。

けど君は見抜いたから、優しくしてくれたんだ。

「同情はいらない」って言ったの、君なのにね。  
それがまさかね、現実になるとは思わなかったから。  
まあ、君が優しくなることなんてないんだけど。こっちの君には伝わらないから。

(でもきつと俺のことだ、本当は伝わって欲しいんだろう)

目が見えなくなったらさ、君の顔が見れないね。

あんな別れ方するんじゃないかって今更後悔してる。

だって二度と君を見れないのに、君の姿がぼやけているなんてね。

耳が聞こえなくなったらさ、君の照れた感情が分からなくなっちゃ  
う。

語尾がすぼんでいく照れ方が、どうしようもなく愛しい。

君が俺の名前を恐々言ってくれるだけで幸せだったのに。

何で俺は今、こんなに泣きそうなんだろうか。

長い間見なかった思い出を、久々に開けたかんじ。

ねえ、俺はどうしちゃったんだろうか。

色んな事が走馬灯のように横切っっていくから。

情けないけど涙が止まらない。

けど本当は泣けてない。最高に泣きそうに歪められたまま。

何度も寂しい時にそばにいてほしかった。無理なのは知ってたけど。  
ただ抱き締めて、「このままでいさせて」って泣くことも出来な  
ったのかな。

強がってただけだから、誰かに見つけて欲しかったのに。

結局誰も知らないまま、永遠に俺だけが知ってることになる。

良いと思った。

自己犠牲は容易いと思った。

君の笑顔のためならね。

でもそれも同情になっちゃったの？

君を傷付けてしまったの？

後ろ向いたままじゃ分からない、何も。

泣けねえ、と笑った俺が君に何て言葉を残してあげられるかな。

あの人みたいに、同情でいいから好きになっちゃってなんて言わない。そ

こまで優しいキャラじゃない。

ここは、「笑って」しかないかな。

笑えねえって言った奴が何言ってるんだ、って話だけどね。

じゃあ何なら出来るんだって、きっと君を泣かすこと。

それしか出来ない。

最後だから、一回泣いて。そうすれば一生笑える。

もう笑っていいんだよ。

大丈夫、

俺も、笑えねえ冗談だって、笑うから。

（ ” 良い最後の日” ）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3552ba/>

---

gut letzt Tag

2012年1月9日06時46分発行